

2026 年度 星薬科大学同窓会神奈川県支部

# 研修会のご案内

(星薬科大学 (G11) 認定単位対象講座)



同窓生の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃から支部同窓会活動にご理解、ご協力を戴きありがとうございます。2026 年度第 30 回同窓会神奈川県支部の研修会・総会・懇談会のご案内をします。研修会は星薬科大学の卒業生であり、卒業以来、我らの母校が世界に誇る最先端研究の一翼を担う研究者の一人であると同時に将来の薬理学研究をリードしていくことが期待される葛巻直子先生を講師にお迎えし、今話題の「iPS 細胞研究を応用したパーキンソン病態の解明」についてご講演いただきます。**本研修会は同窓生・在学生の皆さまが参加できる開かれた研修会です。また、第 30 回開催記念として校内見学会を行います。**大学での学びや旧交を温め親睦を深める機会となりましたら幸いです。お誘い合わせの上、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

## \* 神奈川県支部研修会 (詳細は裏面) \*

**演題** iPS 細胞研究を応用したパーキンソン病態の解明

**講師** 葛巻 直子 先生 (星薬科大学薬理学研究室 准教授 ; H13 年度卒)

**日時** : 2026 年 6 月 14 日 (日) 13:00~14:30 受付 12:30~

**会場** : 星薬科大学百年記念館 C21/22 教室

**受講料** : **無料** (認定単位取得料 : 同窓会会員**無料**・非会員 1,000 円)

★研修会に先立ち、本館壁画や星一記念館を中心とした学内見学の時間を設けます。

参加を希望する同窓生は、12 時に百年記念館前にご集合ください。

## \* 第 30 回星薬科大学同窓会神奈川県支部懇談会・総会 \*

**総会** : 資料配付により総会とします (年会費の徴収はありません)。

※会則改正により、総会は幹事による運営会議での審議事項の報告

**懇談会** : 14:50~16:30 場所 : 百年記念館 1F 学生ホール

※参加費 : 3,000 円 (2008 年 3 月以降、卒業の同窓生及び在学生の参加費は 1000 円)

★**懇談会は事前申込をいただきますと、全ての同窓生・在学生の方がご参加頂けます。**

## 申込期限 5 月 31 日 (日)

申込は右の QR コード又は次の URL より、申込フォームへお願いします。

<https://forms.gle/s4wd5tBqYUqb4pZ57> (申込フォーム URL)

申込フォームが使用できない場合は次のメールでご連絡下さい。

メールアドレス : [hoshiyakukanagawa1995@gmail.com](mailto:hoshiyakukanagawa1995@gmail.com)



申込必要情報 : ①氏名 ②卒業年度 ③神奈川県在住・在勤・以外の区分④参加パート (研修会・懇談会・校内見学) ⑤研修会参加の場合単位取得 (要・不要) ⑥所属 ⑦連絡先など

★ご不明な点は上記のメールで同窓会神奈川県支部磯田 (S55 年) までお問い合わせ下さい。

## <第 30 回星薬科大学同窓会神奈川県支部研修会>

### 演題 IPS 細胞研究を応用したパーキンソン病態の解明

講師 葛巻 直子 先生

星薬科大学薬理学研究室 准教授 (H13 年度卒)

座長 : 小林 岳 (H6 年度卒) 川崎市立井田病院 薬剤部長

### 演題抄録

パーキンソン病は、黒質のドパミン作動性神経細胞が選択的に変性・脱落することで発症する神経変性疾患である。振戦、筋固縮、無動、姿勢保持障害といった運動症状に加え、進行に伴い認知機能低下、抑うつ、感覚過敏、睡眠障害などの非運動症状が現れる。先天性あるいは孤発性に発症し、加齢は主要なリスク因子とされるが、発症機序や病態進行の分子基盤には依然として不明な点が多く、病態解明に向けた研究が精力的に行われている。

近年、パーキンソン病は脳一末梢神経系における特定の細胞種で生じる分子異常が、時間的・空間的に段階的に蓄積されることで病態が進展する疾患と捉えられており、細胞型特異的かつ時空間的な変化の解明が重要な課題となっている。我々は、パーキンソン病の病態解明に向けて、ヒト疾患特異的 iPS 細胞と *in vivo* 神経科学を統合したリバーストランスレーショナル・ニューロサイエンス研究を展開している。PRKN (Parkin) 遺伝子欠失を有する PARK2 関連常染色体劣性若年発症パーキンソン病 (AR-JP) 患者由来 iPS 細胞から分化誘導したドパミン神経細胞において、ドパミン代謝酵素である Catechol-O-methyltransferase (COMT) の特異的発現上昇を同定しており、ゲノム編集により作製した isogenic モデルでも同様の変容を再現した (Kuzumaki et al., 2019 BRAIN)。

一方、黒質領域のドパミン神経細胞内 COMT の発現を *in vivo* で操作することで、錐体外路障害が誘導されることも明らかにしている。現在は、感覚過敏や睡眠障害などの非運動症状に関わる GABA 作動性神経や知覚神経にも着目し、患者 iPS 細胞からの多系統分化を用いた細胞種横断的解析を進めている。本セミナーでは、パーキンソン病の最新の病態理解、薬物治療の進展、ならびに iPS 細胞を用いた先端的な研究アプローチを紹介する。

**主催 : 星薬科大学同窓会神奈川県支部**

**認定共催 : 星薬科大学薬剤師生涯学習支援室**

